

編集後記

中世ヨーロッパでは学問習得のためにラテン語が必須でした。

そのため、ラテン語を解せない一般の人々には一切の知的情報が閉ざされていたと考えられます。この状況を変えるきっかけとなったのが宗教改革です。ラテン語で書かれた聖書を、ルターはドイツ語で、ティンダルは英語で、カルバンの従兄弟オリヴェタンはフランス語で、と母国語に翻訳されたことをきっかけに一般人にも知的情報が入るようになり、歴史的に「近代」が始まりました。デカルトは「方法序説」を一般の人々に広く読んでもらい、彼らの良心に訴えかけ、その判断や検討を仰ぎたいと考えて、ラテン語ではなくフランス語で書いたそうです。自分の言葉で考えるためには、翻訳を通した新しい語句の創造と、知の土着化が必要であり、その過程を通して文化の活性化、多様化が進んだと思います。

同様のことは、日本でも明治維新の時期に起こりました。幕末の開国後、日本語での近代化は難しいと考えた森有

禮は英文著書「日本の教育」で英語公用語化論を主張しました。しかしながら、国内外から多くの反対論が出ました。イエール大学のW.D. ホイットニー教授は、「母語を棄て、外国語による近代化を図った国で成功したものなど、殆どない。」と、懸念を示しました。福澤諭吉は英語学習に批判的ではなかったものの、「国の言葉は、その国の事物の繁多なる割合に従って、しだいに増加し、毫も不自由なき筈のものなり。何はさておき今の日本人は今の日本語を巧みに用いて弁舌の上達せんことを勉むべきなり」と「学問のすゝめ」に記しています。福澤の弟子馬場辰猪も英文著書「日本語文法初歩」において森に反論しています。

今日、こうして日本語で科学を論ずることができることの重要性と有難味を噛みしめて、残りの編集委員の任期の全うを心に、1958年の邦文誌「核融合研究」から「プラズマ・核融合学会誌」の通算第100巻を祝したいと思います。(神藤勝啓)

プラズマ・核融合学会 役員

会 長	安藤 晃			
副 会 長	上田良夫	花田磨砂也 (男女共同参画委員長)		
常務理事	市口勝治 (総務委員長)			
理 事	渥美寿雄 (企画展示検討委員長)	出射 浩 (編集委員長、支部・地区研究連絡会委員長)		
	井 通暁	大勢持光一 (財務委員長)	大原 渡 (企画委員長)	金子俊郎 (年会運営委員長)
	村上 泉 (推薦委員長:研究助成)		横峯健彦 (推薦委員長:学会賞)	
	居田克巳 (研究部会委員長)		兒玉了祐 (広報委員長)	白藤 立
	仙波智行	田中康規	林 伸彦	藤田隆明
監 事	前田達志	立松芳典		

プラズマ・核融合学会 領域長

基 礎 井 通暁(東大) 応 用 白藤 立(大阪公立大) 核融合プラズマ 林 伸彦(量研) 核融合炉工学 上田良夫(阪大)

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ: 出射 浩(九大) 副委員長: 村上 泉(核融合研)
エディタ: 稲垣 滋(京大), 古閑一憲(九大), 重森啓介(阪大), 高橋裕己(核融合研), 石澤明宏(京大), 大矢恭久(静岡大)
編集委員: 伊神弘恵(核融合研), 池田善久(愛媛大), 市原大輔(名大), 宇藤裕康(量研), 岡本征晃(石川高専), 大宅 諒(九大), 恩地拓己(九大), 勝川行雄(国立天文台), 川手朋子(核融合研), 川面洋平(東北大), 小島完興(量研), 小林達哉(核融合研), 佐々木渉太(東北大), 佐野孝好(阪大レーザー研), 神藤勝啓(原子力機構), 關 良輔(核融合研), 高橋宏幸(東北大), 竹崎太智(富山大), 田中 学(九大), 富田健太郎(北海道大), 中村 誠(Helical Fusion), 中野治久(核融合研), 針谷 達(豊橋技科大), 皇甫度均(筑波大), 福本正勝(量研), 古川武留(神戸大), 森田大樹(宇都宮大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第100巻第1号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2024年(令和6年)1月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: https://www.jspf.or.jp/ 定価1,430円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。